

H26地域協働研究（地域提案型・後期）

RL-06「中心市街地の活性化に向けた市民参加型構想の研究」

課題提案者：宮古市

研究代表者：盛岡短期大学部 内田信平

研究チーム員：北原啓司（弘前大学教育学部）山崎政典、岩間健、竹田真人（宮古市総務企画部企画課）

<要 旨>

本研究では、宮古市中心市街地の活性化を目指して、主に若い世代の市民参加のワークショップ形式の会合を計8回実施した。前半では中心市街地活性化のためのイメージ形成、アイデア抽出、およびそれらの共有の作業を行った。後半では、共有されたイメージを具体化するために、「シナリオづくり」の手法を用い、中心市街地で「何をしたいか、どう過ごしたいか」という視点での意見共有を行うことができた。最終回には、成果のプレゼンテーションを行った。

1 研究の概要（背景・目的等）

宮古市の中心市街地拠点施設整備事業、および、これに伴う現市庁舎跡地整備計画は、同市の震災復興後のまちづくりの命運をかけたプロジェクトであり、市民の意見を反映しながら進めていくことが重要である。本研究ではこの事業に関連する諸課題について、市民参加型の議論を進め、方向性を見出すことを目指している。

研究の成果は、市民意向として報告書にまとめ、中心市街地拠点施設整備事業および現市庁舎跡地整備計画の策定へ反映させる。また、市民参加による議論の様子を、タイミングよく広く周知することにより、多くの市民が、参画と協働のまちづくりのあり方に触れることも期待する。

2 研究の内容（方法・経過等）

市民組織を結成し、「現在の市庁舎と整備予定の拠点施設を核とした中心市街地地区に関連性（つながり）を築き活性化を生み出すアイデア」をテーマとして、市民参加によるワークショップ形式の会合を実施し、議論を行った。

まず、ワークショップ形式での議論を進める母体として「まちづくり市民会議」と名づけた組織の形成を行った。震災復興後のまちづくりの主役は若い世代であることから、基本的には高校生から40代までの世代で構成することとした。具体的には、市内の高等学校、短期大学、若者の活動を支援するNPO法人、青年会議所等の団体に声をかけ、参加者を募った。同時に、一般公募市民の参加を募った。

この組織のメンバーで、平成26年度は市民ワークショップを4回実施し、主に中心市街地活性化のためのイメージの形成、アイデア抽出、および、それらの共有の作業を行った。平成27年度は、市民ワークショップを4回実施した。前年度に共有された市街地活性化のイメージを具体化するために、「シナリオづくり」の手法を用いることにより、「何がほしいか」ではなく、「何をしたいか」「どう過ごしたいか」という視点での意見共有を行うことができた。

各回の市民ワークショップによる議論の様子は、開催のたびに宮古市facebookで紹介している。また、市民向けに「かわら版」としてまとめ、配布するほか、宮古市ホームページでも公開し、広く周知している。

3 これまで得られた研究の成果

本研究においては、まちづくり市民会議メンバーによるワークショップを計8回実施した。各回の実施内容を示す。

(1) 第1回市民ワークショップ

平成26年11月29日（土）市役所 参加者：49名

[中心市街地地区の活性化のアイデア]

初回ということもあり、冒頭に、「まちづくり」や「ワークショップ」という手法について参加者への理解を促すために、弘前大学教育学部の北原啓司教授による「“まち育て”のススメ」と題する基調講演を行った。

その後、7グループに分かれて、それぞれで話し合いを行った。活性化している、賑わっているまちの様子をイメージするために、以下3つの切り口で意見を出すことにした。

①そのまちで自分がしてみたいこと／②そのまちで他の人がやっていること／③こんなまちはいやだ！

…これらについて、各メンバーの意見をグループごとにまとめて発表し、参加者全体で共有した。



(2) 第2回市民ワークショップ

平成26年12月20日（土）市役所 参加者：52名

[前回のワークショップで示された「まちに活気がある」「にぎわっている」というイメージを実現するためのアイデアを出してみよう!]

それぞれの参加者が、自分の考えたアイデアを「駅南側の新しい施設」「現市庁舎の跡地」「まちなか（中心街）」「その他」という区分けでポストイットに書き出して、グループ内で発表し、まとめていった。

様々なアイデアが示されたものの、この時点では、言わば「出しっぱなし」の状況であった。そこで、今回は、これらのアイデアがより具体的になるように、「実際にまちなかを歩いてみる」という要素を導入することとした。

(3) 第3回市民ワークショップ

平成27年1月24日（土）市役所分庁舎 参加者：36名

[冬のみやこ、まち歩きワークショップ]

グループごとに分かれて、実際に宮古のまちを歩いてみた。そこで見たものの中で「今日はどうしてもこれを伝えたい!」と感じた「今日の1枚」の写真を撮り、その写真を順番にスクリーンに映しながら紹介し、コメントした。



(4) 第4回市民ワークショップ

平成27年2月21日(土) 市役所分庁舎 参加者29名

[冬のみやこ歩きワークショップ～マップづくり]

前回の「まち歩き」で自分が撮った写真にコメントを書き込み、それらを、白地図に貼りこむ作業を行った。

その後、グループごとに、「まち歩きのルート」をイメージしながら、どういうルートにするのが良いか、そこでどんなアイデアが考えられるかなどについて話し合い、「まち歩きマップ」としてまとめていく作業を行った。



(5) 第5回市民ワークショップ

平成27年4月11日(土) 市役所分庁舎 参加者:27名

[特別講座・先輩に聞く!昔のみやこまち]

前回までのワークショップでは、宮古の歴史的な資源を活かそうというアイデアが多く挙げられていた。そこで、第5回は特別講座と位置づけ、「先輩に聞く!昔のみやこまち」と題し、タウン情報社代表取締役の橋本久夫氏より、昔の宮古の街や暮らしの様子を紹介してもらう機会とした。

(6) 第6回市民ワークショップ

平成27年5月23日(土) 市役所 参加者:24名

[シナリオづくりワークショップ]

前回までの意見交換や「まち歩き」を思い出しながら、「ある土曜日のまちなかでの過ごし方」をイメージし、4～5枚の紙芝居形式の「シナリオづくり」の作業を実施した。どこか1つのシーンには、現市庁舎跡地か新拠点施設が舞台になるようにすることを条件とした。

どのような人が、どの場所で、何を…という、今まで以上に具体的なイメージが示される結果となった。

(7) 第7回市民ワークショップ

平成27年6月20日(土) 市役所 参加者:29名

[シナリオづくりワークショップ～続編]

前回示されたイメージについて、特に市庁舎跡地に焦点を当てながらイメージを膨らませることを目指した。具体的には、「市庁舎跡地での過ごし方」をイメージしてカードに記入し、グループごとにまとめる作業を行った。

各グループからの発表では、「〇〇できる場所」という表

現が多かったのが印象的であった。また、海とのつながり、商店街とのつながり、分庁舎とのつながりというように、つながり・移動のイメージが出てきた結果となった。



(8) 第8回市民ワークショップ

平成27年8月1日(土) 市役所 参加者:30名

[私たちは、宮古のまちなかで、こんなふうにご覧したい!]

これまで7回行ったワークショップの成果発表と位置づけて実施した。過去2回のワークショップで示されたイメージを基にして、まちなかでの過ごし方について、改めて1つの「ストーリー」としてまとめる作業を行った。最後に、グループごとに山本正徳市長の前でプレゼンテーションを行った。

各グループの発表テーマは以下のとおり。

A班「森・山・川と中心市街地をつなげる!」

B班「1日宮古でEnjoy Summer!!」

C班「デートも、文化も、酒も 約4kmのみやこ物語」

D班「四季を楽しむ!! In 宮古」

E班「学生・社会人・家族・高齢者」×「平日・休日」×「春・夏・秋・冬」

全体として、各グループとも、「何がほしいか」ではなく「何をしたいか」「どうすごしたいか」ということについて、自分たちの言葉で表現できたという結果となった。

発表後、山本市長からは、「どのアイデアも、ほとんど実現可能だと思います。それぞれの班が別々にやっっているながら、共通したイメージがありました。みんなの想いの実現に向けてがんばりたい!」とのコメントがあった。



4 今後の具体的な展開

一連のワークショップで得られた成果は、市民意向として報告書にまとめ、中心市街地拠点整備事業および現市庁舎跡地整備計画の策定へ反映させる。

今後(27年度下期)は、新拠点施設の活用、旧市庁舎跡地の活用を念頭におきながら、今回のワークショップ参加者を中心とした、市民による活動の具体化を目指して、「まちづくり市民会議」の第2期の活動を実施する予定である。

5 謝辞

市民ワークショップに参加していただいた「まちづくり市民会議」メンバーの皆様へ、深く感謝申し上げます。